

都道府県・ 指定都市番号	1	都道府県・ 指定都市名	北海道	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科名	総合的な学習の時間
研究課題	学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究 ○探究のプロセスにおける協働的な学習によって、思考力・判断力・表現力等の育成を重視した学習・指導方法及び評価方法の工夫改善についての研究				
指定年度	平成 28 年度～平成 29 年度				
ふりがな 学校名（生徒数）	ほっかいどううらかわこうとうがっこう 北海道浦河高等学校（411 人）				
所在地（電話番号）	〒057-0006 北海道浦河郡浦河町東町かしわ 1 丁目 5 番 1 号 電話 0146-22-3041 FAX 0146-22-2814				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.urakawa.hokkaido-c.ed.jp/				
研究のキーワード 「主体性」 「協働性」 「課題解決能力」 「探究活動」 「カリキュラム・マネジメント」					
研究結果のポイント ○ 「産業社会と人間」と「総合的な学習の時間」を計画的、系統的に関連付けることによる主体性、探究力の涵養 ○ 「総合的な学習の時間」（課題研究の実施、成果発表等）に関する生徒、教員、外部識者等によるアンケート（評価）の実施 ○ 目指す生徒像実現のための「総合的な学習の時間」における評価の観点や評価規準（ルーブリック等）及び評価方法等に関する実践と検証（カリキュラムポリシーの検証） ○ 各教科・科目等における「主体的・対話的で深い学び」の取組と「総合的な学習の時間」の関連（カリキュラム・マネジメントの検証）					

1 研究主題等

(1) 研究主題

- 「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」を通じて、自ら考え、主体的に行動できる生徒を育成する指導方法の研究
- 上記の学習と各教科等の学習とを関連付けて、主体的・協働的学びを推進する指導方法の研究
キャッチフレーズ：one more step（もう一歩前に）

(2) 研究主題設定の理由

本校の生徒は素直で純朴であり、指導されたことを素直に吸収できるものの、自ら考えて、積極的に行動できる生徒が少ない。このため、課題研究や各教科の学習等を通して、思考力・判断力・表現力等や自ら進んで課題に取り組む態度を育成する指導方法及び主体的・協働的に学ぶ態度を育成する指導方法の改善・充実を図る必要があると考え、研究主題を設定した。

(3) 研究体制

「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」の指導計画及び研究計画は、キャリア教育を統括する分掌であるガイダンス部が所掌し、HR担任及び副担任等が分担・協力して実践、研究を行う。また、「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」及び各教科・科目の学習における関連性については、ガイダンス部と教務部が中心となって研究計画を立案し、評価、検証を行う。

(4) 1年間の主な取組

平成 28 年 度	前期	
	4月	・ 教員に対して、生徒に身に付けるべき資質・能力についての共通理解を図る。 ・ 年間指導計画及び研究計画の作成
	5月	・ 研究の全体像を説明する資料の作成
	6月	・ 【2年次】 インターンシップ（～6月） ・ 【3年次】 課題研究（～9月） ・ 生徒の実態把握のための調査の作成・実施 ・ 生徒対象の学習や授業に関するアンケート及び教員の自己評価（第1回）の実施及び分析
		・ 【2年次】 課題研究（～11月）
	7月	・ 【2・3年次】 課題研究の評価方法（ルーブリック）の作成及び検討
	8月	・ 思考ツール学習の進め方のガイダンス及び使用教材の作成
	9月	・ 【1年次】 思考ツール学習 ・ 思考ツール学習に係る研修会
	後期	
	10月	・ 【1年次】 論理的思考講座
	11月	・ 【1年次】 ライフプラン学習
	12月	・ 【2・3年次】 課題研究発表会 ・ 生徒対象の学習や授業に関するアンケート及び教員の自己評価（第2回）の実施及び分析
	1月	
	2月	・ 【1年次】 ライフプラン学習発表会
	3月	・ 【2年次】 課題研究研修収録作成（振り返り学習） ・ 研究に係る研修会（1年次の取組の検証、2年次への課題の検討、研究計画の作成）

1年次：「産業社会と人間」 2, 3年次：「総合的な学習の時間」

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ア 「総合的な学習の時間」における主体性の涵養に向けた指導方法の研究
- イ アンケートの実施による生徒の変容の把握
- ウ 評価方法の研究
- エ 各教科における主体的・協働的学びを推進する指導方法の研究

(2) 具体的な研究活動

ア 「総合的な学習の時間」における主体性の涵養に向けた指導方法の研究

- ・「総合的な学習の時間」の課題研究において、生徒自身の進路に関連するものを基礎テーマとした。
- ・協働的な学習を行い、多様な価値観や視点に触れることで、主体的な取り組みを伸張させた。
- ・思考ツールを活用することで、生徒の探究活動への意欲を高めた。

イ アンケートの実施による生徒の変容の把握

- ・授業実施前及び授業実施後に、生徒を対象に主体性や社会形成能力などについて、アンケート調査を実施した。
- ・教員側から見た生徒の主体性や社会形成能力などについて、アンケート調査を実施した。

ウ 評価方法の研究

- ・研究発表の際にルーブリック評価を導入した。
- ・ワークシート（日報）を用いて、日々の取組状況を見取ることで、形成的評価を実施した。

エ 各教科における「主体的・対話的で深い学び」を推進する指導方法の研究

- ・「産業社会と人間」を通じて、アサーションに関する授業を実施した。
- ・公民科及び福祉科が連携し、障がい理解教育を実施した。
- ・地理Bにおいて、「思考ツールKPT法を用いた話し合い」を実施した。

3 研究の結果と今後の取組

(1) 研究の結果

- 1年次の「産業社会と人間」において、課題研究を行うためのスキルを習得し、2年次の「総合的な学習の時間」では、生徒の興味や関心に基づきテーマを設定し、1年次に習得した課題研究を行うためのスキルを活用してグループ単位で課題探求を実施した。そして、3年次の「総合的な学習の時間」の課題研究では、生徒自身の進路からテーマを設定し、類似する進路希望を持つ生徒でグループ構成を行った結果、自発的な学習姿勢で課題研究に取り組むことができた。また、グループ単位で課題研究を実施することで多様な価値観に触れることができ、主体性を欠く生徒の学習に対する積極性を高めることができた。
- アンケート調査の結果、生徒が捉えている「総合的な学習の時間」に対する興味・関心の高さにより、充実した指導ができた。また、校外関係者によるアンケート調査を実施することで、地域社会から見た本校生徒を分析することができた。
- ルーブリック評価を導入することで、指導のねらいと評価規準が明確になり、指導と評価の一体化を図ることができた。また、生徒が記入したワークシート（日報）を随時見取ることで、形成的に生徒を評価し、タイミングを外さない指導を実施することができた。
- 各教科・科目等において「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を実施したことで、生徒の主体的に学習する意欲を引き出し、考えたことを文章やポスターにまとめて発表するなどの、言語活動の充実により、生徒の思考力、判断力、表現力等を高めることができた。また、各教科・科目において対話的な授業が展開されることで、生徒が教科・科目の学習と「総合的な学習の時間」が相互に関連していることを理解するなどの成果を得ることができた。

(2) 今後の取組

ア 目指す生徒像の実現に向けて一貫したキャリア教育の充実の観点から「産業社会と人間」（１年次）と「総合的な学習の時間」（２年次の「課題研究」、３年次の「課題研究」）をより強く関連させ、系統的な指導を実施する。

<方策>

- ・キャリア教育を包括的に推進するため分掌を改編（キャリアガイダンス部の新設）する。
- ・２年次、３年次それぞれの課題研究を分断せず、修正、深化、発展させる方向で系統化させる。

イ 求められる資質・能力の評価指標を再検討し、「総合的な学習の時間」における目指す生徒像の実現に向けた評価を実施することにより、次年度以降の生徒の到達点を一層向上させる。

<方策>

- ・「課題研究」における評価の観点の明確化とそのための資質・能力の育成に向けた各教科等における横断的な指導についての全体計画を策定する（カリキュラム・マネジメント）。
- ・生徒、教員に加え、関係機関や外部識者によるアンケートを実施し、「総合的な学習の時間」の取組の成果について客観的な評価と改善点を得て、今後の連携の在り方について改善を図る。
- ・課題研究指導マニュアルを改訂増補し、テーマの設定や調査方法、研究にかかる手順など教員のスキルアップを図り、探究性の高い取組の実現を図る。

ウ 単元配列表を作成し、各教科・科目における横断的な「主体的・対話的で深い学び」の総括場面として、「総合的な学習の時間」を位置付ける。

<方策>

- ・キャリアガイダンス部と教務部が連携し、「総合的な学習の時間」において求める資質・能力を、段階的かつ教科横断的に身に付けるためのカリキュラム・マネジメントを推進する。
- ・学校全体で、アクティブ・ラーニングの視点からの授業やＩＣＴを活用した指導方法に関するスキルアップを図ることで、探究的な学習に必要な論理的思考力等、知識・技能を身に付けさせる。
- ・キャリアガイダンス部が課題研究実施のロードマップを作成するとともに、取組の進捗状況と評価に積極的に関わり、ねらいの達成に向けて統括する。
- ・探究学習のプロセスに応じたルーブリック評価を実施することにより、着実な目標達成を目指す。
- ・関係機関との連携を強化し、地域資源や人材を積極的に活用することで、地域の価値を理解するとともに、体験的・実証的な探究活動を深めることで、社会のなかで「生きる力」を育成し、主体性や協働性に加えて社会性を養う。
- ・生徒の自発的な課題意識に基づき、主体的に、多様な人々とつながる力や対話力を向上させるねらいと計画性をもったプロジェクト活動（国際理解、地域文化理解、防災・減災理解など）として、ボランティア活動等の課外活動を実施するとともに、その過程で生徒の自己肯定感や自己有用感を醸成し、課題解決のための継続力、新たな課題への挑戦意識などの意欲や姿勢の育成に努める。